



奥州市誕生10周年に当たり、記念講演した  
拓殖大前総長の渡辺利夫氏

## 地域経営 後藤に学べ

奥州市誕生  
10周年式典 渡辺氏(拓殖大  
前総長)が講演

拓殖大学事顧問で前総  
長の渡辺利夫氏が20日、  
奥州市誕生10周年記念式  
典が行われた奥州市水沢  
区佐倉河の市文化会館  
(Zホール)で記念講演  
した。「フロンティア開

発の人・後藤新平の言  
葉」と題して講演した渡  
辺氏は、台湾総督府民政  
長官として近代化に貢献  
した同市の先人後藤新平  
(1857～1929  
年)の政治思想について

「後藤はその地域の古く  
からの習慣を徹底的に調  
べ、それに見合うような  
施政を導入した。これは  
新しいまちづくりをして  
いくために非常に有用な  
経営思想になるのではな  
いか」と考えを述べた。  
渡辺氏は、後藤新平が  
行った日本の台湾統治  
は、搾取や暴力、抑圧と  
いった印象を持たれやす  
い通常の植民地支配とは  
異なり、教育やインフラ  
整備に力を入れたことな  
どを踏まえ「日本の台湾  
統治は本気のものだっ  
た」と解説した。

そのために人口調査や  
土地調査などを徹底的に  
実施した上で、さまざま  
な事業を展開したことか  
ら、渡辺氏は「われわれが  
新しいまちづくりをして  
いくために非常に有用な  
経営思想になるのではな  
いか」とかく、新しいもの

をつくって利便に供する  
という考え方に陥りやす  
いが、果たしてそれが30  
年後、50年後にもつな  
がるかという発想につな  
がってくる」と述べた。

拓殖大と後藤新平との  
関係にも触れた渡辺氏は  
「拓大3代目の学長であ

り、切っても切れない関  
係。後藤のつくった建学  
の精神は今も生きてい  
る。拓大にとって後藤新  
平は過去の人ではない。  
いまだに生きている存在  
だ」とアピール。

さらに渡辺氏は「後藤  
の台湾統治は全然違っ

いた。奥州市の物語をつ  
くる場合、そういうこと  
を知らしめることによっ  
て誇りを持つ、その誇り  
が人々を引き寄せる資源  
になるのではないかと  
今後のまちづくりのヒ  
ントについても助言し、市  
勢発展へ期待を寄せた。